

# 濱名山手学院創立100周年記念式典 新たな教育ミッションと次世代への挑戦

2024年9月21日、学校法人濱名山手学院創立100周年を記念した式典・祝賀会が神戸ポートピアホテルにて盛大に執り行われた。この式典は、これまでの学院の歩みを振り返るとともに、次の100年に向けた教育の方向性を示す重要な場となった。濱名篤理事長の式辞に始まり、文部科学省、自治体、教育関係者からの祝辞も相次ぎ、学院の歴史と今後の発展に対する期待が表明された。

## 濱名山手学院の歴史とその意義

濱名山手学院の歴史は、1924年に設立された神戸山手学園と、戦後に創設された濱名学院に遡る。神戸山手学園は、女子教育の必要性を強く訴えた神戸市立山手小学校の校長、杉野精造氏により設立された。一方、濱名学院は、戦後の荒廃した社会で幼児教育の重要性を説いた濱名ミサヲ氏が設立した教育機関。両学院は、各々の建学の精神を受

け継ぎながら、2020年に合併し、現在の濱名山手学院として新たなスタートを切った。

式典では、学校法人濱名山手学院理事長・学院院长関西国際大学学長の濱名篤氏が式辞を述べた。同

法人の関西国際大学のキャンパス新設の際に、サントリーの子ーフブレンダーと



濱名山手学院理事長 濱名篤氏

して高名だった奥水精一氏に特別に作ってもらったブレンドドワイスキーを手

に、「異なる建学の精神の個性的な2つの法人、4つの学校、園というモルト(ウイスキー)とグレーン(ウイ

スキー)が、神戸、三木、尼崎という3つの異なる水とともに、これから時間をかけて、さらに熟成する教育機関でありたい。」と語った。

## 真のグローバル教育への取り組み

現代の急速な社会変化、特にICTや生成AIの進展、グローバル化によって求められる新しい教育の形についても言及。その上で、「本学院で働く全ての教職員、園児たちを育成します」と続けた。

濱名山手学院の中核となる関西国際大学、神戸山手女子中学校高等学校、関西国際大学は、グローバルな視野に立った教育を提供するため、先進的な取り組みを続けている。同大学では、クォーター制やベンチマークシステムを導入し、学生の学習成果を可視化することで、自己成長を促進。また、学問分野の枠を超えた経験学習プログラムが提供され

ており、これにより学生たちは実社会での問題解決能力の獲得を目指す。アジアを中心に16の国と地域に86の提携校があり、留学することも可能だ。

同大学は、2年連続で文部科学省の「世界展開力強化事業」に採択されるなど、国際的な教育プログラムの充実に対する取り組みは大きく評価されている。特筆すべきは、2025年に新設予定のグローバル学部。この学部では、留学生比率を30%以上とする計画があり、より国際的な環境で学ぶ機会が広がる。また同大

学では、これまでに1700人以上の防災士を輩出しており、防災教育にも力を入れている。



神戸山手女子中学校・高等学校 校長 平井正朗氏

## 神戸山手女子中高、2025年にグローバル化へ

一方、神戸山手女子中学校・高等学校も、時代の要請

として少子化社会に対応し、社会人や留学生といった多様な学生の受け入れを積極的に進め、オンライン授業など対面以外の学習形態も取り入れる方針だ。これにより、学生一人ひとりが異なる環境や背景を持ちながらも、共に学び成長することができる学びの場を提供する。

4月からは、校名を「神戸山手グローバル中学校高等学校」と変更し、「グローバル化・共学化を行う。この改革により、これまでの女子教育の伝統を継承しつつ、より多様な学生が学べる環境を整える。

また、英語による授業や海外とのオンライン交流を取り入れたグローバル教育も強化され、関西国際大学との連携もさらに深まる予定だ。これにより、学生たちは高校時代から大学の教育に触れる機会が増え、進路の選択肢が広がる。さらに同校は、プログラミングや家庭科、音楽などの授業を英語で行うイマージョン教育により、実践的な英語力を養成し、国際的な人材育成を目指している。

## これからの100年に向けて

式典では、行政や学校関係者の方々からの祝辞もあり、濱名山手学院のこれまでの実績と今後の発展に対する期待が寄せられた。

濱名山手学院は、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの

理念のもと、多様性を尊重し、誰もが包摂される共生社会の実現を目指す。そして、この100年で培った歴史と経験の礎に、さらなる進化を遂げようとしている。

濱名山手学院の創立100周年記念式典は、過去の栄光を称えつつ、次の



式典には各方面から多くの方が列席した